

外遊び型子育て広場「はらっぱ」



- 1 実施団体 特定非営利活動法人かぶかぶ山のようちえん
- 2 担当課 子育て家庭支援課
- 3 実施時期 2022年9月～2023年2月 全10回
- 4 参加者 延べ280人
- 5 実施場所 わかぐさ公園
- 6 事業の目的 乳幼児期の親子支援、外遊び・自然体験の機会創出
- 7 役割分担
 - ・団体の役割 外遊び型子育て広場はらっぱの企画・運営
 - ・担当課の役割 広報、内容に関する助言
- 8 事業の効果(どのような地域課題が解決できたか)

子育てがもっとも大変な妊娠期から乳幼児期に、青梅市ならではの自然と公園を生かした子どもの健全育成の場、子育て家庭と地域との繋がり支援の場を作ることができました。

- ・125名、延べ280回の参加がありました。複数回参加される方もいました。
- ・室内の子育て広場を利用したことがない方が15名参加されました。「室内の広場はちょっと苦手」という方も外遊び型だから参加される方は一定数いました。
- ・市外からの参加は14名ありました。奥多摩・羽村・飯能・入間・八王子などでした。こういった自然の中で遊ぶ広場は近隣でもなく、興味を持たれたとのこと。
- ・複数回参加頂いた方は親同士、子ども同士での交流も生まれて地域の友人、仲間として情報交換や交流もなされていました。
- ・参加者の中には、公園での声掛けで参加いただいた方も複数いらっしゃり、この広場を目指して来なくても、「たまたま」通りかかることで広場につながる方もいました。
- ・ボランティアでの読み聞かせを申し出てくださいる高齢者の方がいらっしゃいました。また同じ

曜日・時間帯開催することで、同じように集まれる太極拳の方や、犬の散歩の方、幼稚園の未就園児さんなど、スタッフ・参加者ともに地域の方に顔見知りが増え、交流が生まれました。

・0歳児には初めて外遊びをする方、初めて草の上を下ろすという方も多くいて、同じ年齢の仲間がいること、保育士や子育て支援員と一緒に遊ぶことで、安心して外遊びができるようになったと声をいただきました。「初めて芝遊びをさせて、草を抜いたり土を触ったりとても楽しそうにしている参加できて良かった😊」「土遊びが好きなことを発見できた！またきたい。」「子どもと一緒に土や葉っぱを子どもの真似をして触ってみると新鮮な感覚で面白かったです。自然遊び、これまで赤ちゃんのやり方はいまいちわかりませんが、もっとしたいなと思いました。」などの感想がありました。



・11月には公園緑地課にご協力いただき、普段は管理としてすぐに清掃されてしまう落ち葉を、無理を言って1週間そのまま残していただいた状態で落ち葉遊びをしました。たくさんの落ち葉で思いっきり乳幼児が楽しみました。「落ち葉いっぱい遊べて楽しい時間を過ごせました♡」などの感想もいただき、公園を常時一緒に楽しむ保育士がいて、協力して下さる行政の方がいれば、自然豊かな青梅ならではの公園の楽しさ・あそびをもっと引き出せるのではと感じました。



・助産師の日はそれを目的に来場される方が多く、おっぱいの悩みを相談される方がいらっしゃいました。またストレッチは悩みに関わらず参加者が多く、子育てしながら自分の体のケアができる機会は求められていると感じました。「外でマットを敷いてストレッチはしたことがなかったので、上を見上げると葉っぱのある環境でするのはとても気持ちよかったです。」という感想がありました。



・**臨床心理士**はお悩み相談会のほか、常時スタッフとしても参加してくれていたため、個別に話しかけられることがあり、話し、じっくりと聞いてもらえることで安心されていたようです。「今日は楽しく学ばせてもらいました。れいちゃんの話もとても参考になりました。」「前はくれよんを食べただけだった子どもが、描いていてうれしかったです。お悩み相談もいい話が聞けたし、断乳がずっと先でいいか！とふんぎれました。ありがとうございました。」「子育ての悩みも今はそれほどでもないけど心がいっぱいになっちゃうときが来たら周りに話してみようと思いました。」などの感想もありました。



・**インタープリター**の回もそれを目的に来場される方が後半に連れて増えました。「説明のしかたが上手で(声も聞き取りやすかったです)自然と場が盛り上がっていました。ありがとうございました。」「秋の気持ちよい風を意識できる遊びがあって嬉しかったです。」などの感想がありました。



・**保育士・子育て支援員が乳児期の子育て支援として平日日中の公園にいる意味も感じました。**現在、公園あそびでは、家庭ごとに遊び、子ども同士の関わりは積極的には行わない対応が通常です。保育園では発達段階を踏まえた見守りや、子ども同士の育ちを保育士が見ていますが、逆に保護者は0歳から預ける方も増えています。またコロナ禍からの行事の減少

や感染症対策などから、市内の認可保育園の乳児クラスでは、他の親と子とともに交流する機会もほとんどありません(団体でも預けているスタッフがいます)。このような状況から、現在乳児期において、自分の子と子以外の交流を、親同士も一緒にじっくりと見ることが少なくなり、0歳の夜泣きや後追い、1歳の断乳、2歳のいやいや期やトイレトレーニングなどで悩まれる保護者の方も多くいました。(幼児期になるとまた本人から事情など色々と話す子も多くなり、保護者同士も顔見知りが増え交流も増えていくことが多いです)

そこではらっぱでは「おだやかにおおらかに」という雰囲気を持ち、スタッフも含めて親も子も交流する機会をもっていくことで、けんかや物の取り合いも、双方の親と「どうするかな、一緒に見守ってみようね」という声掛けや姿勢を持ってきました。これにより、子の交流による成長の機会を逃さずに、親も一緒にその様子をみながら育ちあっていくことができました。

「今日も気持ちよく遊ばせていただきました。なんてことないことでもほかのお母さんと話せるとすっきりします。いつも貴重な機会を作ってください、ありがとうございます。」「おだやかな雰囲気です、とても楽しかったです。ちっちゃい子いっぱい楽しいです。」「みんなで散歩すると見える世界がちがったのしかかったです。」

などの感想もありました。

そういった場のなかで、実際に「この子、いうことや指示に従えないけど大丈夫かしら?」「うちもそうなの」とおっしゃられる2歳の保護者の方もいて、「2歳は自我を出して確立していく時期なので、指示やいうことに従う前に、まずは自分のやりたいことを思いっきりやる段階なので、大丈夫ですよ」などという話ができ、安心されていました。



・出入り自由という場の設定も、公園と乳幼児との相性がよいと感じました。「時間内ならいつ来てもいいというのはとても参加しやすいです。初めてでもスタッフさんが気にかけて話しかけてくださりやすかったです。」「途中いつも遊具に気をとられてしまっていて離脱してしまうのですが、マイペースに参加させてもらってます。くぬぎの葉っぱがあんなにいい香りだなんて知りませんでした。次回も楽しみにしています!」「どうもありがとうございました。ほとんどちがう場所で遊んでいましたが、他のお友達やお母さんやスタッフの方と接する時間が持てて楽しかったです。」などという感想がありました。公園ならではの行き来ができつつも「はらっぱという場」があることで安心でき、発見や成長が広がることを改めて感じました。

9 目標達成

事業の目標:

参加人数 1回あたり10組20名 10回合計 100組

アンケートで下記の項目について参加者の7割以上が5段階で3以上の回答がある

外遊びをしてみたくなかったか・子どもの満足度・保護者の満足度・困ったときに相談しようと思うか・また来たいと思うか

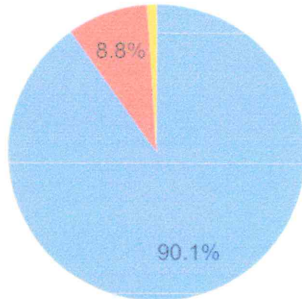
目標の達成具合： 達成できました。

参加人数
アンケート回答結果

1回あたり14組28名 10回合計 140組

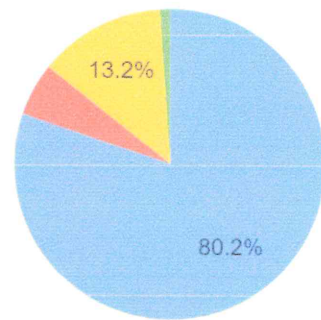
外遊びをしてみたくなくなりましたか？

- とてもなった
- 少しなった
- 未記入



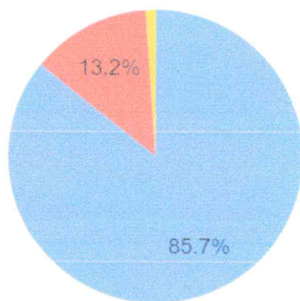
子どもの満足度（保護者記入）

- 満足
- どちらでもない
- やや満足
- 未記入



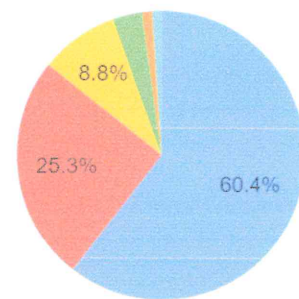
保護者の満足度

- 満足
- やや満足
- 未記入



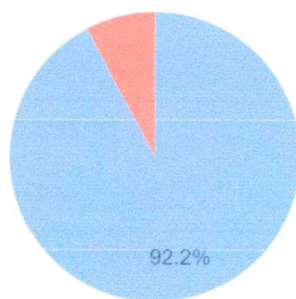
困ったとき相談しようと思いますか？

- とても思う
- やや思う
- どちらでもない
- あまり思わない
- 未記入
- やや満足



また来たいですか？

- とても思う
- やや思う



(1) 場所

子育て世代に広く親しまれているわかぐさ公園で、遊具ではなく、芝生の広場で遊びます。出入りは自由にして遊具とも行き来しました。

(2) 対象

妊娠期から3歳くらいまでの未就園児と保護者

妊婦さんから0歳～3歳を中心とした参加がありました。

実際に参加された妊婦さんは、第一子の方は子育て支援を知りたいとのこと、第二子・三子で上のお子さんと来場の方もいました。

(3) 参加費

無料としました。

(4) 参加方法

予約不要、出入り自由としました。実際に途中で来られる方・帰られる方がいました。

(5) 開催日程とプログラム

各日程 10:00～12:00 計10回 開催

ひろばとして、「おだやかに、おおらかに」「自然とともに」「家族のような仲間とともに」の3つを大事にしていく点とし、どんな親子も居心地よくゆったりと過ごし、子育て中のしんどさを一緒に分かち合い楽しめる雰囲気を作っていました。

プログラム概要

・初めての外遊びを応援しサポートするスタッフ(保育士・子育て支援員・臨床心理士)が常駐して繋がりを持ちながら、自然を感じる遊びを一緒にしていききました。

・定期的に専門家(臨床心理士・助産師・自然体験活動の専門家でかつ青梅市近辺で子育てをしている方)とのお話の時間も設けました。実際に開催してみたところ、自然遊び・お散歩の時間を長くとったほうが、同じ場所にじっとしているよりも、満足度が高いように見られました。そこで散歩に専門家も混ぜてもらいながら知り合いになり、後半短めにお話という形に変化させました。

・子育て広場よりも地域の方との壁がない公園という環境を生かし、「地域交流タイム」も定期的に持ちます。子育て支援団体の方、市役所職員の方や民生児童委員さんなどにもお声がけて、ご近所の方としてラフな形でお越しいただき、親子の実態を知りながら、一緒に遊びながらお互いに知り合える場を作りました。実際に民生委員さんにもお越しいただきました。

※天候・活動に関する配慮

おさがりの衣服を置いて、自由に持って帰ってもらうようにすることで、着替えも気にせず、のびのびとした遊びを促しました。実際に氷・水遊びや散歩で汚れたとき・濡れたときにおさがりの服があることで、思いっきり遊べると喜ばれました。

雨天でもカッパをきたり傘をさして、開催しました。本降りの回は1回だけでしたが、参加は2組4名と少なく、公園の利用も少ないため声掛けもできずでした。雨の日の楽しさ、準備や服装のことなどの広報・認知向上が課題です。

日程	目標	実績	達成率	新規参加	新規参加者率	内容	室内広場を過去に利用していなかった人
----	----	----	-----	------	--------	----	--------------------

				者			(アンケートより)
9/13	20	33	165%	33	100%	氷や水にさわってひんやりしながら過ごそう(触覚) 助産師さんによるママのためのストレッチ	2
9/27	20	26	130%	9	35%	秋の森の空気を吸ってみよう(嗅覚) 臨床心理士さんによるお悩み相談会	8
10/4	20	36	180%	10	28%	秋のちよこつとさんぽ(体を動かす) 地域交流会～こどもと食～	1
10/1 8	20	30	150%	17	57%	※前日に市川様にて青梅市LINE発信 草むらに寝転がってみよう!(触覚) 助産師さんによる産前産後の相談会	0
11/1	20	38	190%	14	37%	秋のいろいろみてみよう(視覚) 臨床心理士さんによるセルフケア	1
11/1 5	20	4	20%	0	0%	※雨の為参加者少 インタープリター(自然案内人)と 秋をさわってみつけて感じよう 地域交流会～こどものそだち(青梅こども未 来様・活動紹介)	0
11/2 9	20	23	115%	13	57%	※朝から雨天も途中から晴れて後半来訪 落ち葉にねころがってみよう(触覚) 助産師さんによるからだのおてあて	1
1/17	-	-	-	-	-		-
1/31	20	19	95%	2	11%	鳥のこえ、風のおとをきいてみよう (聴覚) 臨床心理士さんによるおはなし会	0
2/7	20	32	160%	11	34%	※1/17の代替実施 インタープリターの日 冬さんぽ・霜柱や氷を さわってみよう 地域交流会～こどもと文化～(子ども劇場西 多摩様・活動紹介)	1
2/21	20	39	195%	16	41%	インタープリターの日・冬をさがしてみようオ ノマトペさんぽ 地域交流会～みんなでわいわい子育てマッ プづくり	1
計	200	280	140%	125			

人員配置 スタッフ3名(保育士または子育て支援員・臨床心理士・子育て経験のある方)、講師(臨床心理士・助産師・インタープリター)

募集方法 子育て支援センター・市民センター・子育て広場へのポスターチラシ配布
広報おうめ・市のラインへの掲載
住宅課(移住推進)でのチラシ配布
団体インスタ・ホームページ・フェイスブックなどでの広報
西多摩新聞等での掲載

11 実施団体と担当課の事業評価

4はい 3どちらかといえば「はい」 2どちらかといえば「いいえ」 1いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	
(3)協働の役割分担は適切だった	4	
(4)協働相手は適切だった	4	
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	
(7)事業実施は円滑になされた	4	
(8)設定した目標が達成された	4	
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	

12 まとめ(今後の課題や改善点など)

■総括

全体として、対象者に想定よりも多くの方に参加いただき、「子育てがもっとも大変な妊娠期から乳幼児期に、青梅市ならではの自然を生かした子どもの健全育成の場、子育て家庭と地域との繋がりをつくることで【自然であたたかいつながりのあるふるさとおうめに生まれてよかったな】と親子が思えるような場を作る」という目標を今年度達成できたと考えます。次年度以降も継続して開催していくことで、作り始めた繋がりを深め、場の認知を拡大し、より地域に根付いた「自然豊かであたたかなつながりのある青梅市ならではの子育て支援の場」として貢献できると考えます。

■雨天・低温時の開催

雨の日の楽しさ、準備や服装のことなどの広報・認知向上が課題です。屋根のある場所もある場での雨散歩から始めると、着替え場所に安心できて、より参加しやすいのではと考え、わかぐさ公園の近隣で場所を開拓し、次年度試行します。

■認知の向上

後半、公園内での「はらっぱ」の散歩中に親子連れへの声掛けを積極的に行うようにしていったところ参加が増えました。実際にはらっぱへ参加いただく方が増えてきた段階で、そのようすを実際に見て混ざりたい、遊んでみようと思う層の方と出会うことができましたと考えます。また、公園を歩いているベビーカーを押している保護者の方に声をかけると「子の1か月健診後、初めて外へ散歩に出た」とのこと。不安そうだったので、はらっぱのことをお話してよかったら立ち寄ってくださいねと声掛けすることで笑顔になっていただけたこともありました。これは通常の利用の多いわかぐさ公園だからこそできる活動なので、今後はスタッフとして公園利用者への声掛けにも力を入れていきます。

■自然とのふれあいプログラムの進化

実際に開催してみたところ、自然遊び・お散歩の時間を長くとったほうが、同じ場所にじっとし

ているよりも、満足度が高いように見られました。またインタープリターの来る回を目指してきたとの声も聞かれました。次年度は、身近な公園での自然の見え方が変わったり、発見のあるさんぽをより充実させていけたらと思います。また遠足としてより自然とふれあえる場へ出かける回も増やしていきます。

■地域との交流

後半、公園を利用されている高齢者の方から読み聞かせをしてあげたいとの申し出がありました。実際には中止などで実現はしなかったのですが、今後は「はらっぱ」で大事にしている親子がリラックスしてのびのびとした雰囲気尊重をしながら、地域の方にも混ざっていただくような場づくりを試行してみます。

13 その他
活動写真



複数回参加いただいた親子



受付風景



まどからのぞいてみよう



はらっぱはいはいタイム





地域のおはなし会(子ども劇場西多摩)終わりの会で輪になって



みんなの子育てマップ
(ピンク・利用しやすいお店、青:病院、緑:ひろばや遊び場)